

学校生活（R 6 年度）

行事・部活など

土木建築系の外部連携学習

「2年生の現場見学（10月30日）」

10月30日に土木建築系の2年生17名が、地元の土木と建築の工事現場を見学させて頂きました。普段は関係者しか立ち入れない場所ですが、地域を支える人材の育成と本校の専門教育への支援ということで、長野県建設部および長野県建設業協会中高支部より現場と移動用バスを手配いただき開催されました。

1つ目の現場は、北信病院の北西側の道路改良工事にともなう電線の地中化工事の現場を見学しました。道路に沿って立ち並ぶ電柱は人や車の通行で支障となりがやすく、また、空中にある電線は維持管理や防災面からも課題となります。そこで、道路の拡幅改良にともない、歩道の地中に「電線共同溝」と呼ばれる空間を設け、そこに、電線や通信ケーブルを収納します。電線や通信ケーブルの地下化は都市整備、交通整備を踏まえ、長い年月をかけながら計画的に進められています。現地は変則五叉路や踏切がある難しい条件のなかで、いかに工事による影響を抑えながら、刻々と状況が変化する中で工事の進行と安全を管理するかがポイントですとの技術者からの説明に、専門的な技術や知識に加え、直面する課題への対応と解決力、多くの企業が協力して進め現場を束ねる統率力とコーディネート力、さらに、地域住民の理解と協力を得ながらの展開に際して他者の声に耳を傾け誠意をもって丁寧に対応する人間力が大切であると感じました。技術者の方は、大変なことも多い仕事だが完成時の達成感や自分が手掛けた仕事が形となってより良い環境を創り出していることを実感できることにやりがいを感じるとおっしゃっていました。



2つ目の現場は、中野市片塩に建設中の「平野さつきこども園」という保育園の新築工事が進む現場でした。現在運営中の保育園近くに規模を大きくし民間事業者に移行する施設の建築現場です。地盤改良後の基礎工事が終わり、地表に建物の土台となる部分を施工している段階で、広い敷地にマス目状に鉄筋やコンクリートを流し込む型枠が組まれ、断熱材を入れる作業や地面を転圧する作業、隣接する市道整備に関わる作業などポイントごとに多くの方や重機が同時進行で作業されていました。ここでは4年前に本校建築系を卒業したOBが現場代理人として活躍されており、入職した動機や建築技術者としての仕事ややりがいについて後輩に語ってくれました。



3つ目は、小布施町のハイウェイオアシス近くの松川の河川護岸整備の現場を見学しました。令和元年の台風19号被害からの復旧状況と、その後進められている「信濃川水系緊急治水対策プロジェクト」に基づいた河川整備の様子を、実際に工事が進む現場を見ながら説明を受けました。上流から下流まで広い範囲で地域を越えて流れる川の水については、対象となる河川を枝分かれする支流河川も含め一括して統一的に監視・管理し整備を進めなければならないとのこと。日本で最長河川の信濃川に関わる整備は国家プロジェクトであり、ここでの河川の管理技術や整備手法は、全国モデルとして実施されているとのこと。生活や産業に欠かすことのできない「水」ですが、気象は人のコントロールが及ばない現象で、豪雨がもたらす災害は頻度と規模と地域が年々おおきくなっており、洪水に対するハードとソフト両面からの対策が講じられていることを学びました。現場では情報機器を搭載した重機によるICT施工が行われており、説明とともに実際に重機に乗車し、簡単な操作体験をすることが出来ました。建設現場で進む省力化、高精度化、品質と工程管理の効率化に触れた見学となりました。こちらでも昨年本校土木系を卒業したOBが活躍しており、後輩に向け地域の暮らしを守り支える建設の仕事の魅力を語っていただきました。



身近な地元で展開する土木や建築の現場の状況とそこで働く大人の方々の姿、仕事に対する姿勢や意気込みを間近で見聞きする現場見学は、自分たちが学ぶ土木建築分野が社会的に担う役割について再確認する場であり、そこで求められる知識と技術の一端に触れることのできた貴重な学習でした。また、自分の将来の目標や適性に照らし、今後の学習への取り組みや進路について考える機会となりました。

